

国立大学イノベーション  
創出環境強化事業  
(令和2年度採択)  
フォローアップ調書  
＜アワード申請者用＞

法人名：国立大学法人東海国立大学機構

大学名：岐阜大学

令和4年7月

# 目次：

1. アワード申請要件の確認
2. 民間資金獲得状況
3. 各取組の実施状況及び実施予定
4. 交付金の活用状況
5. 大学収入の状況
6. その他

# 1. アワード申請要件の確認

(要件1) 共同研究費の間接経費率に関して、第3期中期目標期間における重点支援①②類型の大学で20%以上、重点支援③類型の大学で30%を超える間接経費率を学内の制度として導入していること

● 岐阜大学は、以下のとおり学内の制度を導入しており、要件1を充たしている。

○東海国立大学機構共同研究規程 抜粋

第10条 機構は、施設・設備を共同研究の用に供し、当該施設・設備の維持・管理に必要な経常経費等を負担するものとする。

2 共同研究者に対しては、次に掲げる経費等（以下「共同研究費」という。）を負担させるものとする。

一 機構の施設において実施する共同研究については、共同研究遂行のために特に必要となる謝金、旅費、研究支援者等の人件費、消耗品費、光熱水料その他の直接的な経費（以下「直接経費」という。）及び共同研究の遂行に関連して直接経費以外に必要な経費（以下「産学連携推進経費」という。）

二 共同研究（ジョイントラボラトリ型）については、別に定める施設利用料

三 機構及び共同研究者がそれぞれの施設において分担して実施する共同研究については、直接経費に加え、共同研究者の施設において必要とする経費等

3 前項第1号による産学連携推進経費の金額は、別に定める。

以下 略

○岐阜大学共同研究受入細則

第6条 規程第10条第3項の規定に基づく産学連携推進経費は、直接経費の30パーセントに相当する額とする。ただし、直接経費が30万円以下の場合にあっては9万円とし、直接経費が1,000万円以上の場合にあっては300万円とする。

(要件2) 令和3年度の民間資金獲得の実績金額が、計画金額以上であること。

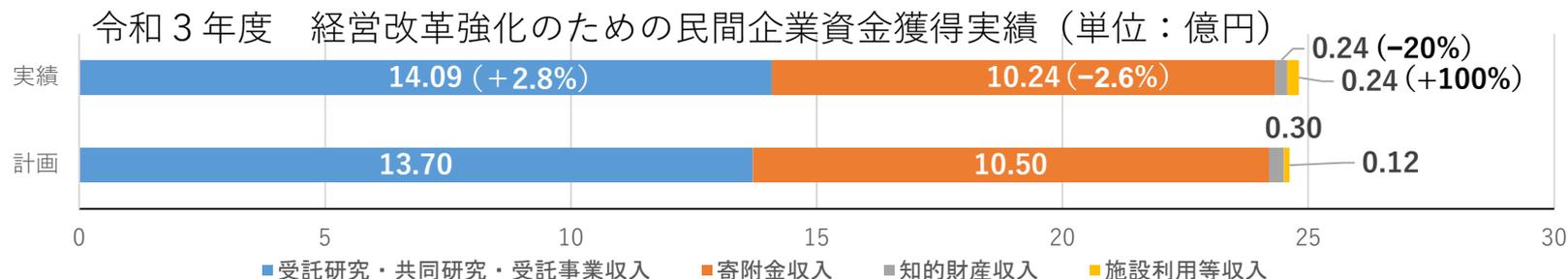
● 岐阜大学は、令和3年度の民間資金獲得が、計画額 **24.62億円** に対し、実績額 **24.81億円** であり、要件2を充たしている。

## 2. 民間資金獲得状況

<令和3年度の計画と実績>

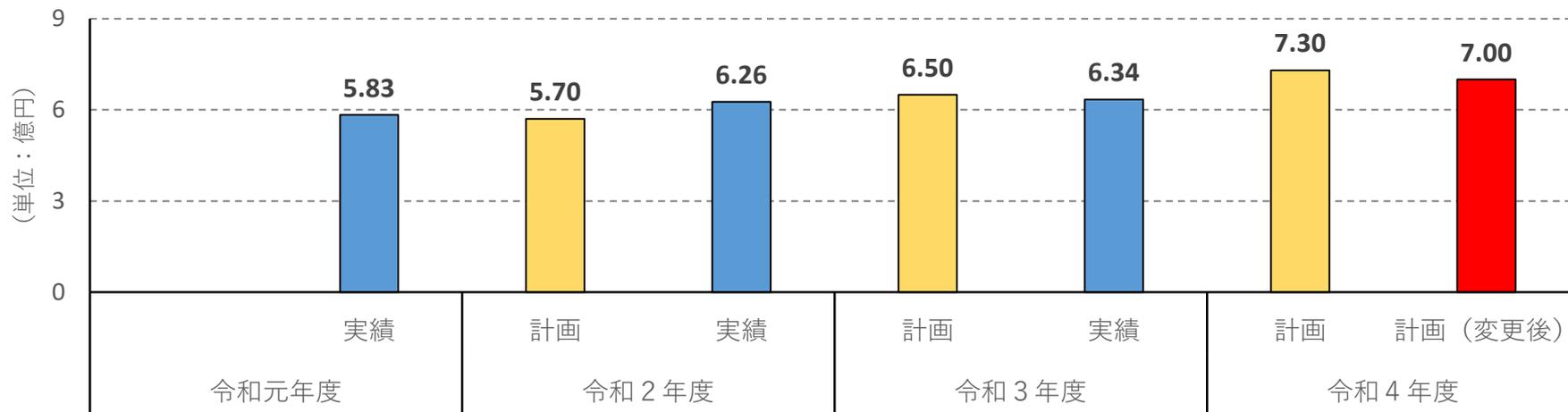
項目	計画 (単位：億円)	実績 (単位：億円)	備考
産学連携による間接経費収入	< <b>1.90</b> > 2.20	<b>2.26</b>	計画比 + 0.06億円
受託研究費	< <b>1.50</b> > 2.10	<b>2.31</b>	計画比 + 0.21億円
共同研究費※	< <b>6.20</b> > <u>6.50</u>	<u><b>6.34</b></u>	計画比 - 0.16億円
受託事業費	<b>2.90</b>	<b>3.18</b>	計画比 + 0.28億円
寄附金収入※	< <b>11.80</b> > <u>10.50</u>	<u><b>10.24</b></u>	計画比 - 0.26億円
知的財産収入※	<u><b>0.30</b></u>	<u><b>0.24</b></u>	計画比 - 0.06億円
施設利用収入	<b>0.12</b>	<b>0.24</b>	計画比 + 0.12億円
計	< <b>24.72</b> > <b>24.62</b>	<b>24.81</b>	計画比 + 0.19億円

<斜体> は申請時に提示した当初の計画金額であって、令和3年度フォローアップ調書にて正体の金額に変更。



## 2. 民間資金獲得状況

### <共同研究費について>



#### (状況の分析)

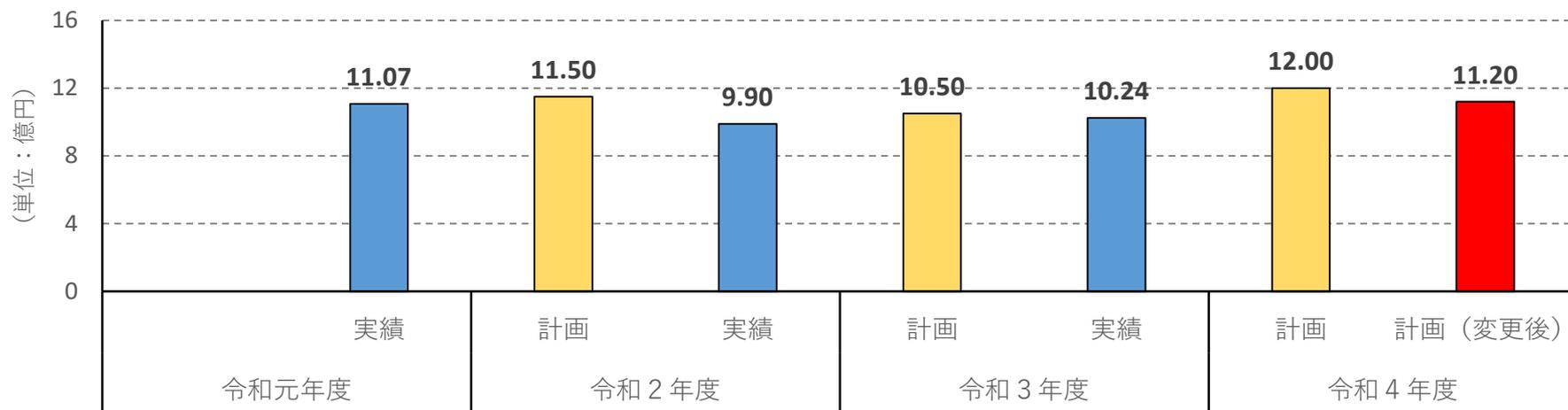
令和3年度の共同研究費収入は、**ウイズコロナの環境下にもかかわらず過去最高の収入となった**。しかしながら、令和3年度フォローアップ調書提出時には、コロナ禍からの景気回復を見込んで、計画を当初の6.20億円から6.50億円に増額をしたため、**計画を0.16億円下回る**結果となった。帝国データバンクの景気動向調査では、令和3年7月～9月、令和3年12月～令和4年2月の時期に**景気が悪化**しており、特に景気DIにおいて**東海圏は全国を下回っている状態**であったことが影響していると分析している。

#### (計画変更)

コロナ禍の影響が依然として社会に強く残っているが、中部経済産業局から令和4年5月に公表された景況判断において「**緩やかに持ち直している**」と状況の好転が見られることから、令和3年度実績から**0.66億円増**の7.00億円に計画を変更する。

## 2. 民間資金獲得状況

### <寄附金収入について>



#### (状況の分析)

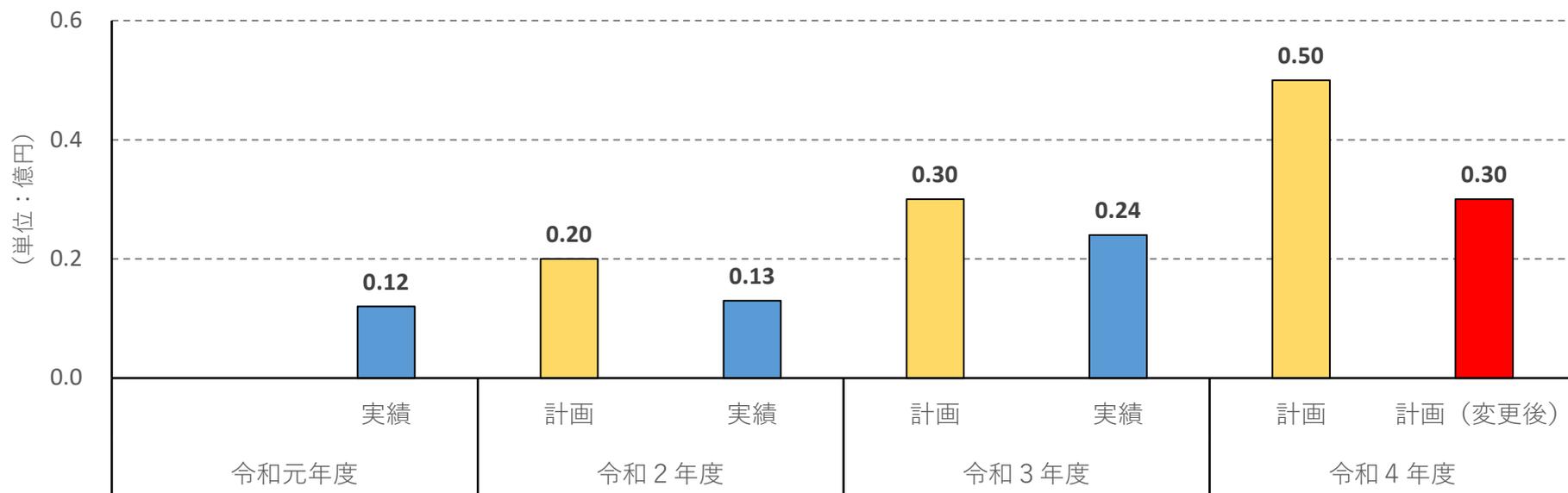
令和3年度の寄附金収入は、ウイズコロナの環境下で令和2年度から**0.34億円の増収**となる**10.24億円**を獲得したが、**計画を0.26億円下回る結果**となった。共同研究費と同様に、帝国データバンクの景気動向調査では、令和3年7月～9月、令和3年12月～令和4年2月の時期に景気が悪化しており、特に景気DIにおいて**東海圏は全国を下回っていることから、収益が落ち込む見通し**の中で、**経常利益を主たる財源とする奨学寄附金が伸び悩んだ**と分析している。

#### (計画変更)

中部経済産業局から令和4年5月に公表された景況判断において「緩やかに持ち直している」と状況の好転が見られることから、令和3年度実績から**約1億円増**となる**11.20億円に計画を変更**する。令和3年度から開始した奨学寄附金への**クラウドファンディング**導入による個人からの寄附収入の規模拡大と**事業環境改善による法人からの寄附金収入の増加**を見込んでいる。

## 2. 民間資金獲得状況

### <知的財産収入について>



#### (状況の分析)

令和3年度の知的財産収入は、計画を0.06億円下回ったが、**前年度比約倍増で過去最高の収入**となった。前年度までの技術移転に関する契約が、計画通りに進んだことが貢献した。

既存知財に加え、新規注目知財として、**バイオ系(植物生長促進)と工学系(路面の凹凸評価)が創出**された。バイオ系は技術移転先(K社)が決まっており、工学系も早期に事業化できる可能性がある。

既存知財の企業による事業化(例えば、抗癌剤(R社(US))により**米国内で治験中**)、フェージセラピー(A社(JP))との**3億/3年の共同研究が3年延長**、核酸医薬(G社(岐阜大学発ベンチャー)/S社(CA))との共同研究))について、いずれも継続されているが、ライセンス料収入として顕在化するまでは、もう少し期間が必要と分析している。

#### (計画変更)

知的財産収入の柱と考えている既存知財の企業による事業化(市場導入)に遅れが認められるため、令和4年度の計画は下方修正する。

# 3. 各取組の実施状況及び実施予定

## <取組概要>

<自己評価について>  
 ◎：計画以上に進捗している  
 ○：計画どおりに進捗している  
 △：当初の計画どおり進捗していないが、目的は達成している  
 ×：当初の計画どおり進捗せず、目的も達成していない  
 -：計画の修正、変更などにより評価できない  
 ※：その他

<取組の拡充・追加について>  
 拡充：既存の取組であるが、取組内容を拡充する取組  
 追加：新たに追加する取組  
 -：「拡充」や「追加」に該当しない取組

取組	令和2年度 自己評価	令和3年度 自己評価	取組の 拡充・追加	内容
<b>【取組1】</b> 知財・技術移転、安全保障輸出管理の統合・強化	△	○	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>過去最高の知財収入を記録した。</li> <li>有望案件は全て共同研究が継続実施され、中長期的な知財収入増への基盤整備を確立した。</li> </ul>
<b>【取組2】</b> スタートアップ（ベンチャー）創設・成長支援の充実	◎	◎	拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>岐阜大学発ベンチャーからの外部資金獲得（共同研究・知財収入等）に向けたインフラ・資金面等での支援、プロジェクト伴走的支援体制の強化により、当初の目標を超える増収を実現した。</li> <li>伴走的支援体制やインフラ・経営人材マッチング等支援の更なる拡充により、起業機会の増大と共同研究環境の充実化を図る。</li> </ul>
<b>【取組3】</b> コアファシリティ体制の強化	◎	◎	拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部利用者による岐阜大学内共用機器へのアクセスを容易にするWeb検索システムに138台の機器・7つの受託解析を登録し、収入増への基盤整備を完了した。</li> <li>令和3年度に開設した遺伝子検査室が順調に稼働し、全国医療機関より受託解析を獲得した。</li> <li>コアファシリティ構築支援プログラムに採択され、機構内技術職員ネットワークを構築し研究支援機能を強化した。</li> <li>技術職員によるコンサル機能の強化によって共用機器の外部利用等の促進を図る。</li> </ul>
<b>【取組4】</b> デジタルツールによるシーズ・ニーズマッチングの促進	○	○	拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究者業績データをベースに、企業が日常に使用する言葉で研究内容を検索できる仕組みをAIを使って開発した。</li> <li>研究者データ管理とマッチング検索/AI-Web検索のシステム構築を当初計画通りに完了した。</li> <li>企業へのデジタルマッチング/AIチャットボットの利用啓蒙活動の推進する。</li> </ul>

### 3. 各取組の実施状況及び実施予定

#### <取組概要>

取組	令和2年度 自己評価	令和3年度 自己評価	取組の 拡充・追加	内容
【取組5】 マッチングファンド型ブランド共同研究講座の開設	○	△	拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>マッチングファンド型地域ブランド共同研究講座の制度設計に続き、岐阜県、関市、岐阜関刃物会館、及び地元企業から構成された協議会を運営し、関係者との合意形成を開始した。</li> <li>中部電力株式会社と地域包括連携に基づく地域創生活動を展開し、新規に3件の共同研究を開始した。</li> <li>地域の中核大学の産学融合拠点(経済産業省令和3年度)をハブとして活用し、イノベーション創出や地域経済活性化につながる共同研究講座を設置する。</li> </ul>
【取組6】 地域展開ビジョン2030の推進	○	◎	拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>重点支援プロジェクトを中心に産学連携コーディネーターによるマッチング等を実施、目標の0.50億円を超える0.97億円(36件)の共同研究を実施した。</li> <li>地域創生プロジェクトを再定義し、大学の強み・特色ある分野において全学リソースを結集した42(前年度比2倍増)の地域創生プロジェクトとして改編を行い、社会実装を目指した研究開発体制を整備した。</li> <li>産学連携コーディネーターを増員、URAと連携しプロジェクトを推進し、1.2億円/年の民間資金獲得を達成する。</li> </ul>
【取組7】 寄附金獲得体制の強化	◎	△	拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>寄附者の利便性の向上と戦略的な募金活動のマーケティングツールとして、岐阜大学基金管理システムの導入を完了した。</li> <li>岐阜大学基金クラウドファンディング実施要項を制定し、クラウドファンディングの実施体制を整備した。</li> <li>岐阜大学基金管理システムの運用を開始し、データ分析による効率的な募金活動を進める。</li> </ul>
【取組8】 外部資金獲得が促進される人事制度改革	○	○	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>民間企業等からの外部資金獲得額の多い教員について、「産学連携教授」「産学連携准教授」の称号授与や、「産学連携重点研究室」認定を行う制度を創設し、3名の教員に称号を付与、2つの研究室を重点研究室に認定した。</li> </ul>

### 3. 各取組の実施状況及び実施予定

令和2年度 自己評価	令和3年度 自己評価	取組の 拡充・追加
△	○	—

#### 【取組1】 知財・技術移転、安全保障輸出管理の統合・強化

#### 機構の技術移転ノウハウを活用した恒常的な実施料収入体制の構築

##### 令和2年度及び3年度の活動実績

- 東海国立大学機構における知財管理システムが統合完了／運用開始した。また技術移転をより機動的にするため、契約雛形・規定の一部を変更した。
- アカデミアが開発した技術シーズを実用化する技術移転機関（テックマネッジ）、名古屋大学米国技術移転事務所（NU Tech）を通じた技術移転先の探索活動を開始した。
- 東海国立大学機構における安全保障輸出管理の電子申請システムが統合完了し、運用開始した。
- 恒常的収入の柱に位置付けた知財について、米国での治験拡大/継続、共同研究の継続等、それぞれ事業化に向けた進捗を確認した。令和3年度知財収入増は特に医薬系が寄与した。
- 収入増に向けて新たな知財の柱（バイオ系・工学系）が創出された。

##### 令和4年度及び5年度の計画

- 柱とした各知財（抗癌剤(R社)、ファージセラピー(A社)、核酸医薬(S社)、切削鍛造(D社))について、企業との具体的なライセンス交渉・契約締結をめざす。
- 医療関連で蓄積された知見を活用してライセンス収入につなげる仕組みを構築する。
- 派遣大学に採択（令和4年度）された知財戦略デザイナー派遣事業（特許庁）等を活用して、少ない投資で出口戦略を強化する。
- 継続的な知財創出のため、研究者とのオンライン面談を定例化する。
- 東海国立大学機構として、安全保障輸出管理やスタートアップ創出におけるノウハウを共有できるメリットを活用する。

### 3. 各取組の実施状況及び実施予定

令和2年度 自己評価	令和3年度 自己評価	取組の 拡充・追加
◎	◎	拡充

【取組2】 スタートアップ(ベンチャー)創設・成長支援の充実

スタートアップエコシステムによる大学発ベンチャーからの資金獲得

#### 令和2年度及び3年度の活動実績

- 下記のベンチャー支援を行い、令和2年度は**ベンチャー4社との共同研究**により**共同研究収入0.44億円**を獲得、令和3年度は**7社(※)との共同研究**により**0.49億円**を獲得して目標(0.30億円)を達成した。  
※ 認定ベンチャー(株)GF・Mille、(株)フォトリック・エッジ、(株)ゼノバイオティック、FiberCraze(株)など
  - **東海機構運営Tongaliプログラム**を活用した**研究成果型大学発ベンチャーの創出促進**
    - ・ **ギャップファンド事業**と**仮説検証プログラム研修**(技術の事業化トレーニング)を実施
    - ・ 学内における**企業シーズの発掘調査**: 全教員データ分析/アンケート/ヒアリング/重点支援
    - ・ 経産省 令和3年度 大学発ベンチャー実態等調査: **増加率トップクラス**(日経新聞5/18掲載)
  - **ブランド向上**を意図した**認定ベンチャー制度**によるスタートアップ企業への称号授与
  - 試作品やサンプル製作専用の**岐阜大学イノベーション創作室**の学内整備
  - 学内人材と地域産業界との**協働/共創コワーキングスペース**(JR岐阜駅近辺)の整備
  - 学内**ベンチャー入居スペース**の確保、**金融機関・ベンチャーキャピタル(VC)**との連携促進
- **キャンパスベンチャーグランプリ全国大会**で学生が**文部科学大臣賞、審査委員会特別賞を受賞**(R3)その他、**起業部学生**が中部地域の主要なビジネスコンテストのほぼ全てで**最優秀賞(1位)**を獲得した。

#### 令和4年度及び5年度の計画

- 令和3年度同様の支援の拡充に加え、下記の取組により、**起業機会の増大**と**共同研究環境の充実**を図り、**中長期的な共同研究収入の増加**を目指す。
  - **ベンチャー・起業家育成担当**のURAの新規配置による**伴走的支援体制**の強化
  - 学内における**ベンチャー入居スペース**及び**コワーキングスペース**の拡充
  - 設立したベンチャーの規模拡大/持続的発展を目的とした育成方策の検討
  - **地域金融機関・ベンチャーキャピタル(VC)・地域企業**との連携促進
  - 発掘した学内**起業シーズ**と**経営人材(起業部学生や起業家)**との**マッチング**

# 3. 各取組の実施状況及び実施予定

令和2年度 自己評価	令和3年度 自己評価	取組の 拡充・追加
◎	◎	拡充

## 【取組3】 コアファシリティ体制の強化

### 「大学資産」を活用した外部資金獲得体制の構築

#### 令和2年度及び3年度の活動実績

- 岐阜大学の共用機器の外部利用を促進するため、**Web検索システム**の開発、機器・設備の**ネットワーク対応**と**組織再編**に取り組み、**計画通り**にコアファシリティ体制を構築し、**138台の機器・7つの受託解析**を登録し、収入増への基盤整備を完了した。
  - ▶ 利用者の**自由文検索に対応**した**曖昧検索可能**な共用機器**Web検索システム**の**検索機能向上**
  - ▶ **高利用頻度機器**の共焦点レーザー顕微鏡、走査型電子顕微鏡の**ネットワーク対応整備、機能向上を達成**
  - ▶ **利用目的に応じた4技術支援室の設置**と技術職員の配置
  - ▶ **遺伝子検査室を開設**し、全国の医療機関より受託解析を獲得



#### 令和4年度及び5年度の計画

- **共用機器Web検索システムの広報活動**を積極的に展開し、利用者を増やす。
- 令和3年度採択の**文部科学省コアファシリティ構築支援プログラム事業**を推進し、**機構統括技術センターの体制強化を加速化**する。
- **機構内技術交流**により、**機構兼務技術職員の専門性強化**による主要機器**整備を可能な限り内製化**し、機器の維持管理や修理の**低コスト化**を推進する。
- **共用機器利用を起点**とする企業との**共同研究・受託事業**の**発掘**、**技術職員によるコンサル機能**によって、**新たな収益ルートの開拓**を行い、**高収益化**を推進する。

# 3. 各取組の実施状況及び実施予定

令和2年度 自己評価	令和3年度 自己評価	取組の 拡充・追加
○	○	<b>拡充</b>

【取組4】 デジタルツールによるシーズ・ニーズマッチングの促進

AIを使った企業ニーズと研究内容マッチングで共同研究範囲の拡大

## 令和2年度及び3年度の活動実績

岐阜大学研究者データ管理とマッチング検索/AI-Web検索のシステム構築を当初計画通りに完成した。

- ▶ Researchmapデータを基にした恒常的・拡張的運用可能な研究業績管理システムの構築
- ▶ 研究者名や研究用語で絞込めるデジタルマッチングシステムを構築、地域企業への利用啓蒙活動を開始
- ▶ 企業ニーズ用語をAIを使って解釈し拡大検索できるAIチャットボットを構築(特許出願：特願2022- 73964)

従来：Researchmap

単語検索

R2：デジタルマッチング

絞込み検索

R3：AIチャットボット

## 令和4年度及び5年度の計画

令和4年度及び5年度は、当初計画通り研究者データ管理/AI-Web検索システムを運用し、利用拡大と利用データの分析を実施する。

- ▶ 企業へのデジタルマッチング/AIチャットボットの利用啓蒙活動の推進
- ▶ AIチャットボット「検索システム及び検索方法特許(特願2022- 73964)の企業活用推進
- ▶ 名古屋大学の研究者検索によるシーズカバレッジ向上を支援
- ▶ 令和4年度構築予定の研究マネジメントシステム(RDM)との連携



# 3. 各取組の実施状況及び実施予定

令和2年度 自己評価	令和3年度 自己評価	取組の 拡充・追加
○	△	拡充

## 【取組5】 マッチングファンド型地域ブランド 共同研究講座の開設

オープンイノベーションによる地域ブランド産業技術の高度化

### 令和2年度及び3年度の活動実績

- マッチングファンド型地域ブランド共同研究講座の制度設計に続き、岐阜県、関市、岐阜関刃物会館、及び地元企業から構成された協議会を運営し、地域ブランド共同研究講座で実施する具体的な内容をまとめ、関係者との合意形成を開始した。
- 中部電力株式会社と地域包括連携に基づく地域創生活動を展開し、新規に3件の共同研究を行った。

### 令和4年度及び5年度の計画

- 令和4年度は共同研究講座を1～2講座設置する計画であり、コロナ禍で遅延した関係機関間合意形成を迅速に進めるとともに、協議会の枠組みを活用した大型予算獲得を目指す。
- 令和4年度以降は、地域の中核大学の産学融合拠点(経済産業省令和3年度)をハブとして活用し、イノベーション創出や地域経済活性化につながる共同研究講座を設置し、さらに地域包括連携活動を拡充することで0.5億円/年の民間資金獲得を達成する。

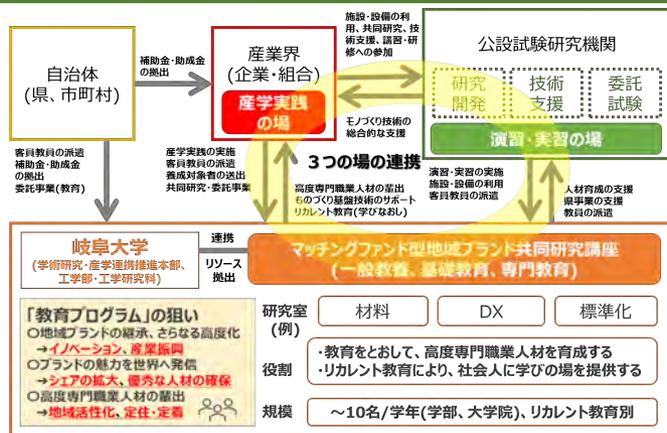


図) 地域ブランド共同研究講座(合意形成中)

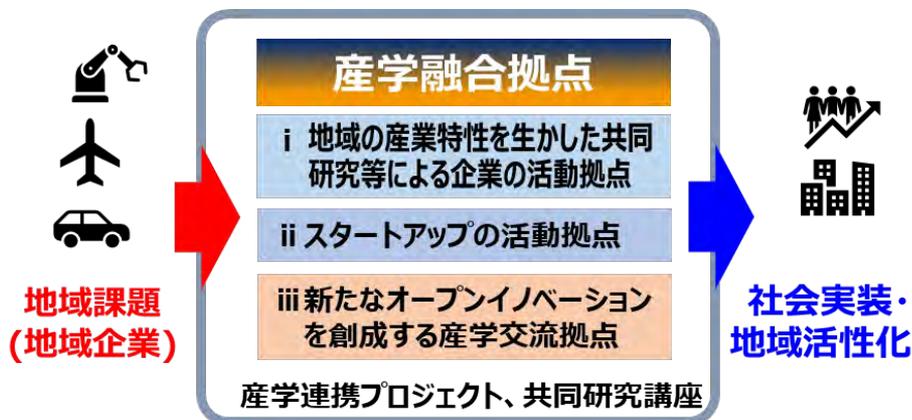


図) 産学融合拠点をハブとした共同研究講座形成(構想)

# 3. 各取組の実施状況及び実施予定

令和2年度 自己評価	令和3年度 自己評価	取組の 拡充・追加
○	◎	拡充

## 【取組6】 地域展開ビジョン2030の推進

### 地域創生プロジェクトの推進による民間投資の呼び込み

#### 令和2年度及び3年度の活動実績

- 重点支援プロジェクトをメインに産学連携コーディネーターによるマッチングおよびプロモーションにより、本事業に関連して目標の0.5億円を大きく超える0.97億円(36件)の共同研究を実施した。
- 地域展開ビジョン2030をさらに推し進めるため、地域創生プロジェクトを再定義し大学の強み・特色である『生命科学分野』、『環境科学分野』、『ものづくり分野』において全学リソースを結集した42(前年度比2倍増)の地域創生プロジェクトに改編し、社会実装を目指した研究開発体制を整備した。

#### 令和4年度及び5年度の計画

- 令和4年度は、地域創生プロジェクトをさらに発掘し、第4期中期目標・中期計画の期間中に20%以上増加させる。
- 地域創生プロジェクトを持続的に支援する仕組みとして研究基金を創設し、研究成果の社会実装を推進する。
- 産学連携コーディネーターを2名増員(既雇用5名)、URAと連携しプロジェクトを推進、1.2億円/年の民間資金獲得を達成する。
- 産学融合拠点を活用し、地域ステークホルダーとの「共創の場」を設け、地域課題の解決や地域活性化に資するネットワークを創生する。



No.	名称	概要
1	3	「暮らしが定着し、新たな産業を生み出す社会」- 現存する地域の機能を活かして新たな産業を生み出す
17	2.9	「地域創生プロジェクト」の推進と地域創生プロジェクトの推進
18	2.9	「学生が活躍できる社会」- 学生が活躍できる社会の構築
19	3.9	「地域創生プロジェクト」の推進と地域創生プロジェクトの推進
20	3.9	「地域創生プロジェクト」の推進と地域創生プロジェクトの推進
21	3.9	「地域創生プロジェクト」の推進と地域創生プロジェクトの推進
24	3.9	「地域創生プロジェクト」の推進と地域創生プロジェクトの推進
26	4.6, 7.0, 11.2, 13.1, 15.1, 17	「地域創生プロジェクト」の推進と地域創生プロジェクトの推進
30	6.1, 13.1, 14.1, 15.1, 17	「地域創生プロジェクト」の推進と地域創生プロジェクトの推進
31	6.1, 13.1, 14.1, 15.1, 17	「地域創生プロジェクト」の推進と地域創生プロジェクトの推進
32	6.1, 13.1, 14.1, 15.1, 17	「地域創生プロジェクト」の推進と地域創生プロジェクトの推進
35	9.1, 9.1, 12.1, 13	「地域創生プロジェクト」の推進と地域創生プロジェクトの推進
41	11.1, 13.1, 15	「地域創生プロジェクト」の推進と地域創生プロジェクトの推進
7	1.3, 1.5, 1.6, 1.5	「地域創生プロジェクト」の推進と地域創生プロジェクトの推進
8	2.3, 2.5, 15.1, 17	「地域創生プロジェクト」の推進と地域創生プロジェクトの推進
6	2.1, 14.1, 15	「地域創生プロジェクト」の推進と地域創生プロジェクトの推進
8	3	「地域創生プロジェクト」の推進と地域創生プロジェクトの推進
9	3	「地域創生プロジェクト」の推進と地域創生プロジェクトの推進
13	3.4, 9.1, 7	「地域創生プロジェクト」の推進と地域創生プロジェクトの推進
16	3.8, 9.1, 7	「地域創生プロジェクト」の推進と地域創生プロジェクトの推進
23	3.9, 14.1, 15	「地域創生プロジェクト」の推進と地域創生プロジェクトの推進
25	3.9, 15.1, 17	「地域創生プロジェクト」の推進と地域創生プロジェクトの推進
29	4.9, 11.2, 15.1, 17	「地域創生プロジェクト」の推進と地域創生プロジェクトの推進
40	9.1, 15.1, 17	「地域創生プロジェクト」の推進と地域創生プロジェクトの推進
42	13.1, 15.1, 17	「地域創生プロジェクト」の推進と地域創生プロジェクトの推進
14	3.9	「地域創生プロジェクト」の推進と地域創生プロジェクトの推進
22	3.9, 13.1, 15	「地域創生プロジェクト」の推進と地域創生プロジェクトの推進
26	7.0, 11.2, 13.1, 15	「地域創生プロジェクト」の推進と地域創生プロジェクトの推進
37	9.1, 13.1, 15	「地域創生プロジェクト」の推進と地域創生プロジェクトの推進
39	9	「地域創生プロジェクト」の推進と地域創生プロジェクトの推進
3	2.3, 4.9, 13.1, 17	「地域創生プロジェクト」の推進と地域創生プロジェクトの推進
10	3.4, 7.0, 9.1, 11.2, 15.1, 17	「地域創生プロジェクト」の推進と地域創生プロジェクトの推進
12	3.5, 13.1, 17	「地域創生プロジェクト」の推進と地域創生プロジェクトの推進
27	4.8, 9.1, 7	「地域創生プロジェクト」の推進と地域創生プロジェクトの推進
28	4.8, 9.1, 13.1, 17	「地域創生プロジェクト」の推進と地域創生プロジェクトの推進
33	6.1, 15.1, 17	「地域創生プロジェクト」の推進と地域創生プロジェクトの推進
36	8.1, 15.1, 17	「地域創生プロジェクト」の推進と地域創生プロジェクトの推進
1	1.2, 1.4, 1.6, 1.1, 1.3, 1.7	「地域創生プロジェクト」の推進と地域創生プロジェクトの推進
5	2.1, 2	「地域創生プロジェクト」の推進と地域創生プロジェクトの推進
18	6.7, 6.9, 13.1, 17	「地域創生プロジェクト」の推進と地域創生プロジェクトの推進
19	3.8, 9.1, 7	「地域創生プロジェクト」の推進と地域創生プロジェクトの推進
34	7.0, 11.2, 13.1, 15	「地域創生プロジェクト」の推進と地域創生プロジェクトの推進

### 3. 各取組の実施状況及び実施予定

令和2年度 自己評価	令和3年度 自己評価	取組の 拡充・追加
◎	△	拡充

#### 【取組7】 寄附金獲得体制の強化

「教員個人」から「組織」による寄附金獲得体制への変革

##### 令和2年度および3年度の活動実績

- コロナ禍での特別修学支援事業により、計画(0.50億円)を超える**0.95億円の寄附金を獲得**した。
- 体制構築のため、DO室にファンドレイザー(1名)を配置した。
- 寄附者の利便性の向上と戦略的な募金活動のマーケティングツールとして、岐阜大学基金管理システムを導入した。
- 新たな寄附ツールとなるクラウドファンディングについて、令和3年7月に「岐阜大学基金クラウドファンディング実施要項」を制定し、クラウドファンディングの実施体制を整備した。
- 今後の基金獲得戦略の核となる大学支援型コミュニティ形成の活性化を図る岐阜大学校友会の設置に向けて、岐阜大学校友会設置（案）を策定した。
- 新たな取組として、「農学部・応用生物科学部創立100周年記念事業」、「工学部創立80周年事業」及び大学に関連した返礼品付「岐大プレミアム募金」を開始し、寄附者の掘り起こしを図った。

##### 令和4年度および5年度の計画

- 岐阜大学基金管理システムの運用を開始し、データ分析による効率的な募金活動を進める。（R4年度見込み額：0.30億円）
- 東海機構で進めるデジタル・ユニバーシティ構想に基づく、アルムナイネットワークマネジメントの開発に参画し、校友会活動のツールとしての活用を検討する。
- クラウドファンディングをさらに効果的に活用し、寄附金獲得体制を強化する。（R4年度見込み額：0.50億円）

# 3. 各取組の実施状況及び実施予定

令和2年度 自己評価	令和3年度 自己評価	取組の 拡充・追加
○	○	—

## 【取組8】 外部資金獲得が促進される人事制度改革

### 外部資金獲得研究者の裾野拡大と「とんがり」の卓越化

#### 令和2年度及び3年度の活動実績

- 民間企業等から一定額以上の**外部資金**（共同研究・受託研究・受託事業）を**獲得した教員**に対して、**「産学連携教授」「産学連携准教授」の称号を授与する制度**を創設し、令和3年度には、**3名の教員に称号を付与**した。
- とんがりを高くする改革**として、民間企業等から一定額以上の**外部資金**（共同研究・受託研究・受託事業）を**獲得した教員**の所属研究室の運営支援を行う**「産学連携重点研究室」認定制度**を創設し、令和3年度には、**2つの研究室を重点研究室に認定**した。

#### 令和4年度及び5年度の計画

- 令和4年度は、**1名の教員に称号を付与、2つの研究室を重点研究室に認定**する。
- 令和5年度に本制度の**効果検証と必要な改善**を実施する。

**産学連携教授の称号記及び産学連携重点研究室認定書の授与式を行いました**

本学は、6月1日（水）に「産学連携教授称号記」及び「産学連携重点研究室認定書」の授与式を行いました。

大学が持つシーズに対する企業からのニーズが高まり、共同研究や受託研究等の受入が年々増加しています。本学では、民間企業等から一定額以上の資金（共同研究・受託研究・受託事業）を受け入れた教員に特別な称号などを授与することにより、企業等との連携を一層推進する目的で、本制度を実施しています。

授与式では、関係者が見守るなか、吉田学長から次の受賞者に称号記及び認定書が授与され、吉田学長は、「全学の模範となり、岐阜大学の発展に寄与して頂きたい。」と激励の言葉を述べました。

**【産学連携教授】**

- ・松下 光次郎 工学部 准教授

**【産学連携重点研究室】**

- ・矢部 大介 大学院医学系研究科 教授
- ・久武 信太郎 工学部 産学連携教授

本学は、これらの産学連携を推進する制度により、今後も研究成果の社会還元を行ってまいります。



西田学長から認定書を授与される矢部大介教授



出張先のドイツからオンラインで参加する久武信太郎産学連携教授



共同研究の内容を西田学長に説明する松下光次郎産学連携教授



集合写真  
[左から] 松下光次郎産学連携教授、矢部大介教授、久武信太郎産学連携教授（オンライン参加）、西田学長、正副学長、矢部副学長補佐

R4年度分 授与式について岐阜大学HP (R4.6.9付) 記事より抜粋

## 4. 交付金の活用状況

令和2年度：交付金額 **3** 億円

令和3年度：交付金額 **1** 億円

目的	交付年度	用途	金額 (単位：億円)	期待される効果
岐阜・名古屋両大学における研究実務レベルでの一体化の推進  【取組1, 2, 6など】	R2	<ul style="list-style-type: none"> <li>岐阜大学・名古屋大学による連携研究グループ形成支援事業</li> <li>名古屋大学との管理システム統合（安全保障）</li> <li>イノベーション創出事務体制強化</li> </ul>	0.49	<ul style="list-style-type: none"> <li>名古屋大学との連携研究グループ形成事業により岐阜大学と名古屋大学の研究をマッチングさせた大規模プロジェクトへの展開</li> </ul>
	R3	<ul style="list-style-type: none"> <li>名古屋大学との管理システム統合（安全保障）</li> </ul>	0.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>管理システムの統合により、研究支援組織の実務フローが共通化され、機構として一体化した業務の効率化</li> </ul>
外部資金獲得に繋がる新たな産学連携の機会創出及び機会の増加  【取組4, 5, 6】	R2	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域展開ビジョン2030アクセラレーション事業（共同研究化）</li> <li>マッチングファンド型地域ブランド共同研究講座の制度設計</li> <li>デジタルマッチングツール開発（基本仕様策定）</li> </ul>	1.25	<ul style="list-style-type: none"> <li>アクセラレーション事業の社会実装が可能な研究テーマへの選択的資金投入により、教員と産業界との新たなチャンネル形成・強化が促進され、持続的な産学連携機会の創出とマッチングファンド型地域ブランド共同研究講座の設置</li> </ul>
	R3	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域展開ビジョン2030アクセラレーション事業（社会実装）</li> <li>デジタルマッチングツール開発（システム開発）</li> <li>契約業務管理システム構築</li> </ul>	0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルマッチングツールにより、Webを通じた産業界ニーズと学内技術シーズのマッチングが容易になり、コロナ禍に象徴される非対面環境下での共同研究の機会損失の抑止</li> </ul>

# 4. 交付金の活用状況

令和2年度：交付金額 **3** 億円

令和3年度：交付金額 **1** 億円

目的	交付年度	用途	金額 (単位：億円)	期待される効果
外部資金の安定化と増加を目指した資金獲得手段の多様化 【取組2, 3, 7】	R2	<ul style="list-style-type: none"> <li>共用機器の外部利用環境整備（ツール開発と人件費）</li> <li>東海地区スタートアップエコシステム構築に向けた起業支援事業</li> </ul>	0.65	<ul style="list-style-type: none"> <li>コアファシリティ事業により、地域内の大学・公的研究機関・民間企業からの利用頻度増大・利用料収入の増加</li> <li>大学発ベンチャーの活性化により、共同研究の増加、企業価値の向上に伴う所有株式等の資産価値増加、寄附金の獲得</li> <li>基金システムによる寄附金事務の効率化、寄附者マーケティングとURAのクラウドファンディング支援により、寄附件数と寄附収入の増加</li> </ul>
	R3	<ul style="list-style-type: none"> <li>コアファシリティ事業の基本システム開発</li> <li>ベンチャー起業運営支援活動に係る人件費</li> <li>基金システム構築</li> <li>クラウドファンディング実施人件費</li> </ul>	0.34	
強み分野の更なる競争力強化 【取組8など】	R2	<ul style="list-style-type: none"> <li>糖鎖生命コア研究所共同研究事業</li> <li>SDGs 及び東海地域の諸課題の特定とその解決に向けた基礎研究支援事業</li> </ul>	0.44	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際的に高い研究競争力を持つ糖鎖生命コア研究所を軸に、国内外研究機関との共同研究の推進支援により、直接的な外部資金獲得、優秀な研究者の取り込みによる一層の競争力強化</li> <li>産業技術総合研究所とのアライアンス事業により両機関の強み分野をマッチングさせた共同研究をベースに大型外部資金の獲得、新たな研究プロジェクトへの昇華</li> </ul>
	R3	<ul style="list-style-type: none"> <li>糖鎖生命コア研究所共同研究事業</li> <li>産総研とのアライアンス事業</li> <li>産学連携重点研究室支援</li> </ul>	0.29	
知的財産の運用体制強化 【取組1】	R2	<ul style="list-style-type: none"> <li>保有技術と協力企業の技術移転支援活動</li> <li>名古屋大学との管理システム統合（知的財産）</li> </ul>	0.17	<ul style="list-style-type: none"> <li>知的財産管理システムの統合、技術移転機関の活用と知財コーディネーターによる技術移転支援により知財マーケティングの戦術の幅を広げ、産業界からの知財アクセス頻度の増加及び知財の販路拡大</li> </ul>
	R3	<ul style="list-style-type: none"> <li>保有技術と協力企業の技術移転支援活動</li> </ul>	0.02	

# 5. 大学収入の状況

## <民間資金獲得額>

令和3年度フォローアップ調書提出時

(単位：億円)

費目名	令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和3年度 計画	令和4年度 計画	増加額 令和4-令和元	令和5年度 計画	増加額 令和5-令和元
産学連携による間接経費収入	0.99	1.99	2.20 <1.90>	2.30 <2.40>	1.31		
受託研究費	1.50	2.13	2.10 <1.50>	2.20 <1.50>	0.70		
共同研究費	5.83	6.26	6.50 <6.20>	7.30 <8.00>	1.47		
受託事業費	2.81	2.52	2.90	2.90	0.09		
寄附金収入	11.07	9.90	10.50 <11.80>	12.00 <12.50>	0.93		
知的財産収入	0.12	0.13	0.30	0.50	0.38		
施設利用収入	0.02	0.02	0.12	0.22	0.20		
民間資金獲得額（全体） ※民間から獲得した外部資金の総額	22.34	22.95	24.62 <24.72>	27.42 <28.02>	5.08		

<斜体> は申請時に提示した当初の計画金額であって、令和3年度フォローアップ調書にて正体の金額に変更。



実績及び変更後の計画

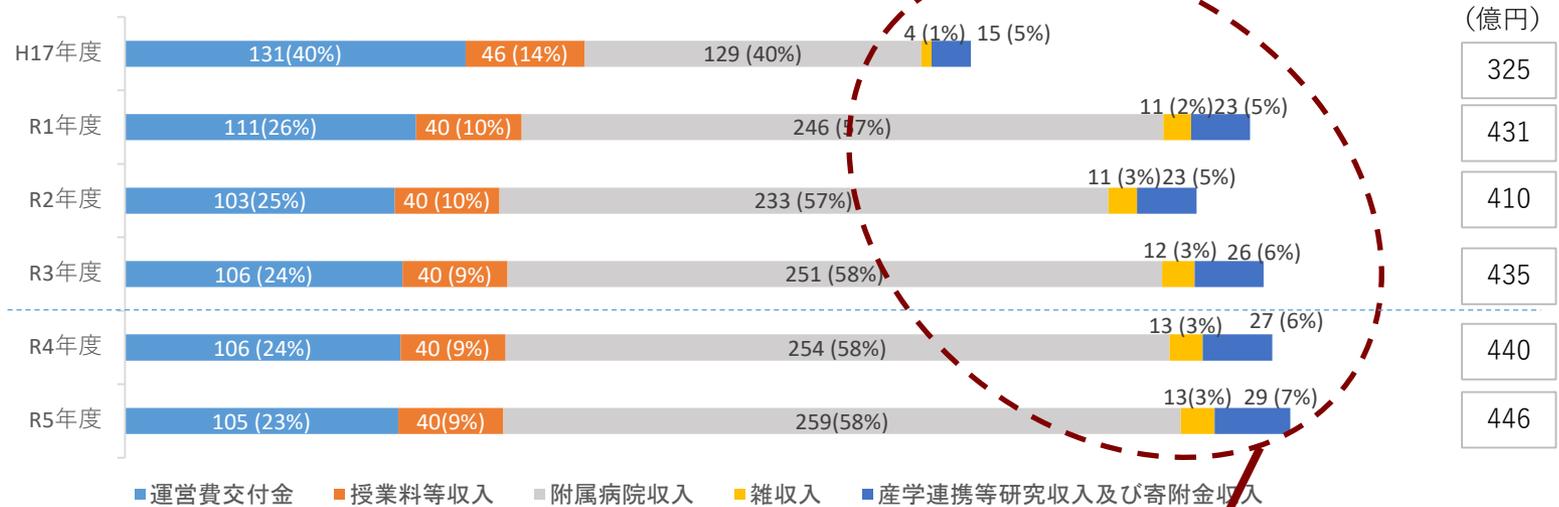
(単位：億円)

費目名	令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和3年度 実績	令和4年度 計画	増加額 令和4-令和元	令和5年度 計画	増加額 令和5-令和元
産学連携による間接経費収入	0.99	1.99	2.26	<u>2.43</u>	1.44	2.56	1.57
受託研究費	1.50	2.13	2.31	<u>2.50</u>	1.00	2.70	1.20
共同研究費	5.83	6.26	6.34	<u>7.00</u>	1.17	7.50	1.67
受託事業費	2.81	2.52	3.18	<u>3.20</u>	0.39	3.20	0.39
寄附金収入	11.07	9.90	10.24	<u>11.20</u>	0.13	12.20	1.13
知的財産収入	0.12	0.13	0.24	<u>0.30</u>	0.18	0.50	0.38
施設利用収入	0.02	0.02	0.24	<u>0.32</u>	0.30	0.40	0.38
民間資金獲得額（全体） ※民間から獲得した外部資金の総額	22.34	22.95	24.81	<u>26.95</u>	4.61	29.06	6.72

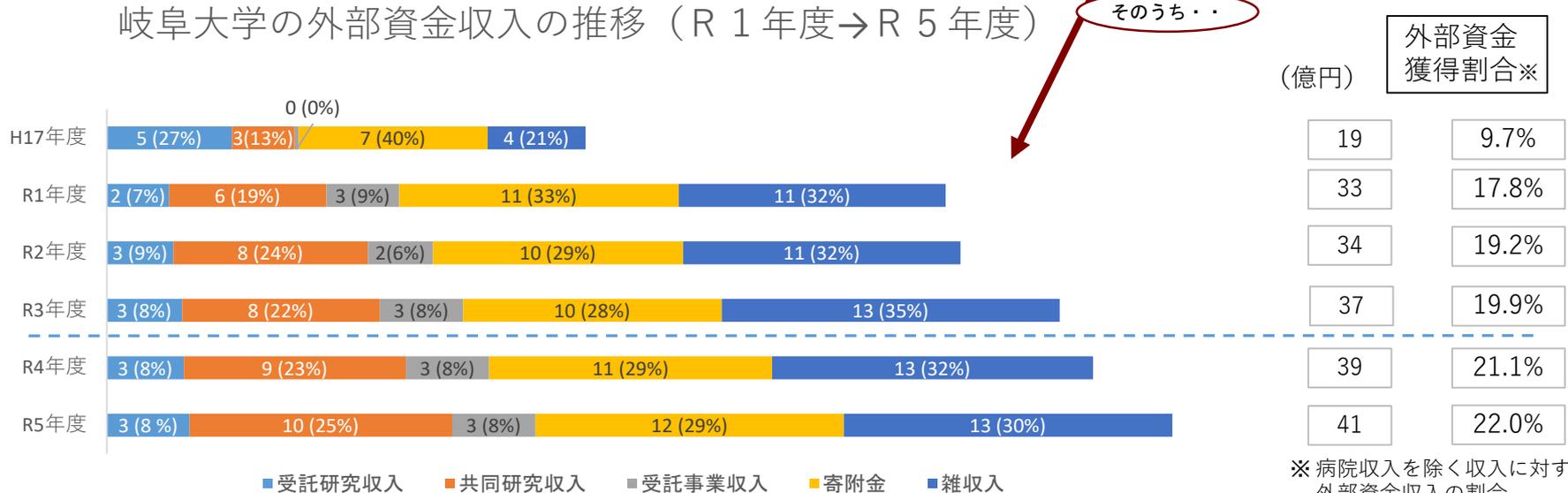
# 5. 大学収入の状況

## <実績及び変更後計画に基づく大学収入の見込み>

岐阜大学の収入の推移 (R 1年度→R 5年度)



岐阜大学の外部資金収入の推移 (R 1年度→R 5年度)



※ 病院収入を除く収入に対する外部資金収入の割合

# 6. その他

## 計画実現のためのガバナンス強化

### ● 岐大・名大連携研究グループ形成事業

岐阜・名古屋両大学の特色を活かした相補的な研究者で構成される研究グループを10件を形成。グループの活動は、機構設立趣旨の一つである研究におけるシナジー創出に加え、機構研究者としての一体感を増すことに繋がり、機構としての目標・価値観の共有促進を通じたガバナンスが強化。

## イノベーション創出強化支援事業の政策的効果

### ● 若手研究者のポスト拡大

産学連携で優れた成果を有する若手研究者の昇任を優先する制度を実施し、工学部・応用生物科学部各1名の助教が令和4年4月に准教授に昇任。  
世界トップレベル研究者を支援する若手育成プログラム（G-YLC）を創設し、令和4年4月に1名の特任助教が着任。

### ● 基礎研究応援プログラム

岐阜大学において、地域的に中小事業者からの投資が主であり、研究初期段階での共同研究実施は困難な為、本プログラムにより、民間投資を呼び込める段階まで研究を進めることができ、新規の共同研究を推進。

### ● 民間企業との共同研究促進事業

産学連携を率先する研究者の育成を目的に、民間企業との共同研究機会の創出活動を支援。  
令和元年度までの30万円×3件の事業規模から、令和2年度から50万円×10件に拡大。

### ● イノベーション創出環境強化室の強化

URA、プロジェクトマネージャーが執務を行う学内初のフリーアドレスオフィス（昨年度設置済）を学術研究・産学官連携推進本部棟へ移設し、ワンプレイス・ワンストップでの支援体制を強化。

### ● クラウドファンディングの実施

「岐阜大学クラウドファンディング実施要項」に基づき、大学公認クラウドファンディングを2022年2月から順次開始し、既に7つのプロジェクトの実施により20,000千円を超える外部資金を獲得。

### ● 産学融合拠点の整備

ベンチャー支援(取組2)が学内の起業ブームをけん引し、産学融合拠点(経済産業省令和3年度)の採択に大きく寄与した。産学融合拠点の整備により、産学連携、ベンチャー創業の好循環が加速化。



# 大学の研究成果を活用した大学発ベンチャー創出等の具体事例

## ■ 研究成果型大学発ベンチャーの代表事例

● **株式会社ゼノバイオティック**（令和 2 年設立）  
**岐阜大学発認定ベンチャー**。本学地域科学部の研究グループが開発した「化合物の毒性試験結果予測ソフトウェア『xenobiotic』」及びその知財を活用した事業を展開。

● **株式会社カケミチプロジェクト**（令和 2 年設立）  
 本学医学部附属病院精神神経科の専門的知見を活用し設立した**学生ベンチャー**。訪問看護事業（看護師が訪問し利用者の病気や障がいに応じた看護やサポートサービスを提供）、インターネットを介した研修事業を展開。

● **FiberCraze 株式会社**（令和 3 年設立）  
**岐阜大学発認定ベンチャー**。本学工学部の研究グループが開発した「ナノサイズの“あな”空きフィルム・繊維に、あらゆる機能を付与させた高機能素材」及びその知財を活用した事業を展開。**学生ベンチャー**。

● **株式会社しずい細胞研究所**（令和 4 年設立）  
 本学医学部の知財を活用し設立。歯髄細胞の培養方法や運搬方法を定め、ブロックチェーンを使って詳細な細胞トレーサビリティを提供。また非営利・営利機関への細胞出荷の窓口になり、細胞取扱のサポート役を務める。

● **N研究所株式会社**（令和 4 年設立）  
 本学工学部の知財を活用し設立。超急速EV充電器等の系統電圧集中管理システムにおける配電系電圧の分布・変動を可視化するシミュレータ等を提供。

## ■ 本学(名大含め東海機構)のアクセラレーションプログラム（令和 3 年度実施及び令和 4 年度実施中）

➤ 仮説検証プログラム(技術の事業化トレーニング)研修  
 目的：研究成果である技術の用途を探索し事業化する技能を習得。実際に事業化の可能性を探索。

概要：用途アイデアの発散と収束、価値仮説検証、ビジネスモデル構築、ピッチ資料作成法等の事業化手法を学び実践

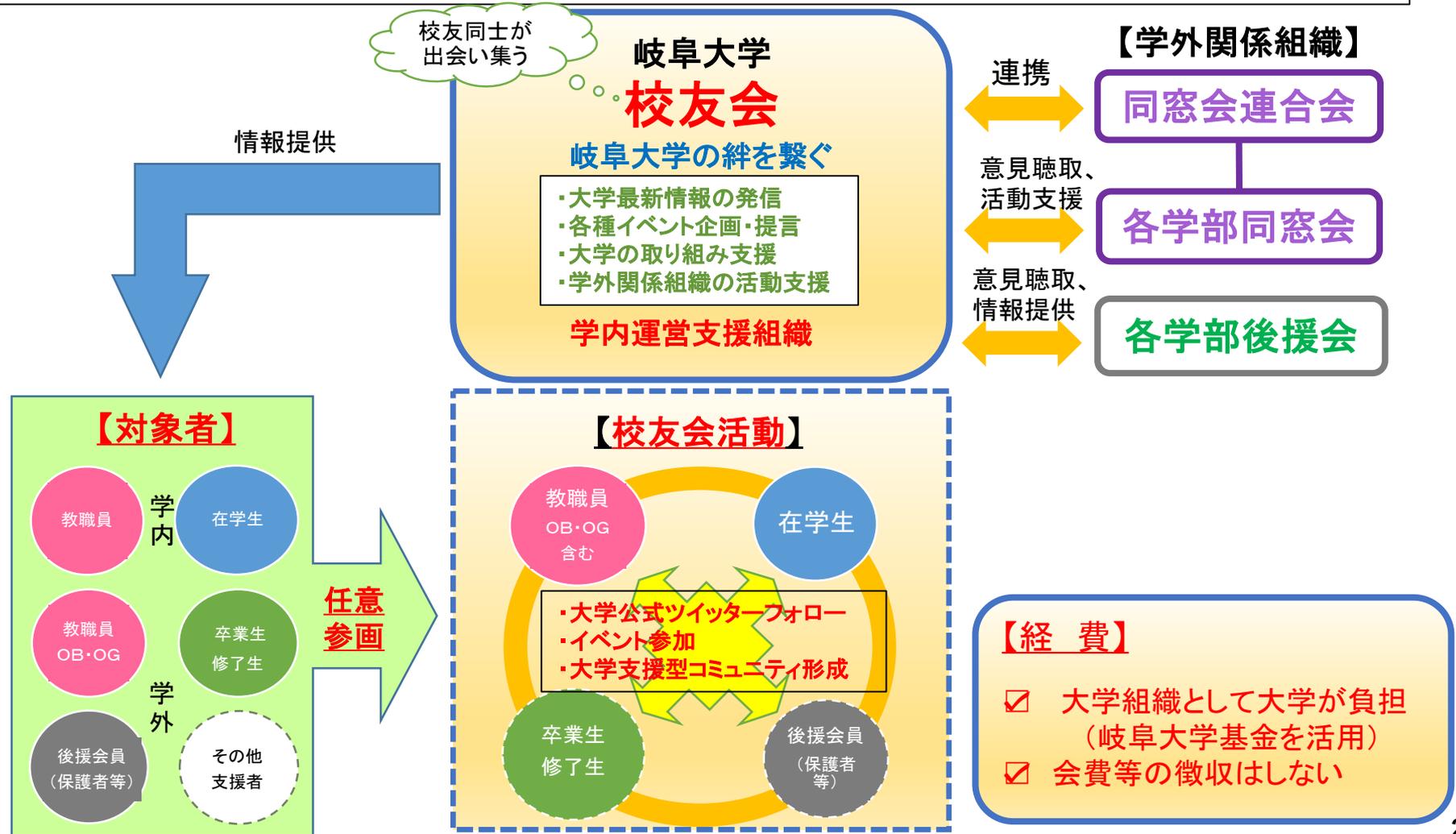
令和3年度は7名受講(JST-Score事業で実施)、令和4年度は6名受講中(JST-START事業で実施)

➤ 本学独自のギャップファンド事業

- ・ 令和2年度：本事業による「東海地区スタートアップエコシステム構築に向けた起業支援事業」実施
  - ➔ 本学5件採択のうち、2件ベンチャー創設
- ・ 令和3年度：本事業による「地域展開ビジョン2030 アクセラレーション事業(社会実装フェイズ)」実施

# 岐阜大学校友会の概要について

**【校友会とは】** 卒業生、在学生、後援会員及び教職員等を校友会活動の対象者とし、対象者に対して岐阜大学の情報共有を図り、対象者相互の交流・連携を深め、対象者と共に本学の取り組みを支援することにより、大学の発展及び社会貢献に資することを目的とした、新たな学内運営支援組織



# 岐阜大学校友会（仮称）構想による基金獲得戦略

## ● 校友会とは

卒業生、在學生、後援会員及び教職員等を会員とし、会員に対して岐阜大学の情報共有を図り、会員相互の交流・連携を深め、会員と共に本学の取り組みを支援することにより、大学の発展及び社会貢献に資することを目的とした、新たな学内運営支援組織

### 今後の増収対策(今から取り組み可能な事例)

- ・ マンスリーサポーター制度の導入 (月々の引き落としによる寄付) **令和4年4月実施予定**
- ・ 大学版ふるさと納税方式による寄附金募集の検討 (大学グッズ等) **令和3年12月岐大プレミアム募金実施**
- ・ ご厚志に対する謝意の拡大検討 **令和3年4月実施** (「特別/栄誉会員」の称号プレートの贈呈)
- ・ 退職を期とした寄附の依頼

### ● 寄附への取組

- ・ 取引先金融機関の拡大(5行・郵便局)
- ・ インターネットによる寄附方法 (クレジットカード決済・コンビニ決済・ペイジー決済(インターネットバンキング)の導入)
- ・ 卒業生をメインに趣意書の送付(お願い)
- ・ 県内経済団体を通しての趣意書の送付(お願い)
- ・ 役員による企業訪問
- ・ 遺贈による受け入れ
- ・ 株式配当による寄附受け入れ
- ・ 自販機の手数料 ・ コンビニ募金箱

コミュニティが活性化しないといくら寄附のお願いをしても寄附者の心には刺さらない

## 恒常的寄附に繋がるコミュニティの醸成

卒業生等会員の無形な財産 (時間、人脈、情報等) も活用

### 【コミュニティ例】

- ・ 卒業生異文化交流会
- ・ ホームカミングデー (卒業生自主企画)
- ・ 既卒者就職・転職キャリア支援
- ・ ライフイベント情報交換会
- ・ 在學生と卒業生が語り合う場
- ・ 元奨学生の卒業生が語る場
- ・ 社会経験を學生に還元 等々

コミュニティ活動により母校愛を醸成し、よりハイレベルな恒常的支援者を育成

## 継続的なコミュニティの活性化施策

- ・ 大学貢献型の志ある人材の発掘
- ・ 大学支援型コミュニティ形成の機会提供
- ・ 在學生には将来の支援者として「母校愛」を醸成

## 周年記念事業

+α

## 恒常的寄附へ

現時点からでも実行可能なもの

- ・ 寄附者の心に刺さる大学基金パンフレット作成  
新型コロナウイルス感染症緊急学生支援事業、Withコロナでのキャンパスライフ応援プランなど 実施
- ・ 東海国立大学機構下での岐阜大学情報の発信  
岐阜大学基金メールマガジン配信 実施

- ・ 校友会活動を通じた大学支援型コミュニティの活性化推進 (学生ステータス・システムの導入/活用)
- ・ 寄附者データ等の分析による戦略的な募金活動の立案・実行 (岐阜大学基金管理システムの導入/活用)

- ・ **新たな寄附者獲得**
- ・ **リテンション率UP**
- ・ **恒常的支援者/寄附者育成**